

平成30年度は、4つの財務書類から総括すると、堅調な財政運営を行えたものと考えられます。

① 貸借対照表(バランスシート)

貸借対照表は会計年度末時点において市の資産と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを一目で分かるようにしたものです。左側に資産を表示し、右側に負債及び資産と負債の差額である純資産を表示しています。

資産の部（これまで積み上げてきた資産）		負債の部（将来世代が負担する金額）	
1 固定 資産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、体育館、 市営住宅、地区集会所など	270億3,540万円	1 固定 負債 (1) 地方債 156億8,241万円
	(2) インフラ資産 道路、公園、橋梁、上下水道など	236億1,344万円	(2) 退職手当引当金 28億2,418万円
	(3) 物品、ソフトウェアなど	1億3,523万円	(3) その他の固定負債 0
	(4) 投資その他の資産	29億8,910万円	2 流動 負債 (1) 賞与等引当金 2億1,531万円
			(2) その他の流動負債 13億9,485万円
			負債合計 201億1,675万円
2 流動 資産	(1) 現金預金	10億2,369万円	純資産の部（現在までの世代が負担した金額）
	(2) 基金、未収金など	17億8,652万円	純資産合計 364億6,664万円
資産合計		565億8,338万円	負債及び純資産合計 565億8,338万円

④ 資金収支計算書

現金の流れを示すものです。その収支を性質に応じて区分して表示することで、市がどのような活動に資金を必要としているかを表示しています。

前年度末資金残高（繰越金）	9億1,412万円
本年度資金収支額	8,802万円
1 業務活動収支	10億2,404万円
税金、国県等補助金、人件費など	
2 投資活動収支	△9億7,356万円
公共施設等整備費支出、国県等補助金など	
3 財務活動収支	3,755万円
地方債等発行、償還など	
本年度末歳計外現金残高（預り金）	2,155万円
本年度末現金預金残高（来年度繰越金）	10億2,369万円

③ 純資産変動計算書

市の純資産（資産から負債を引いた残り）が年度内にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したかの情報を表示しています。

前年度末純資産残高	368億8,319万円
本年度変動高	△4億1,655万円
△純行政コスト	△153億8,012万円
財源	149億6,229万円
(市税、地方交付税、 国・県補助金)	
資産形成への充当	0
その他	128万円
本年度末純資産残高	364億6,664万円

市の資産と負債の状況

① 住民1人当たりの資産と負債残高 (平成31年3月31日現在人口 56,012 人)

資産 = 101万円 【資産合計/人口】 負債 36万円 【負債合計/人口】
 参考：平成29年度 資産 101万円 負債 35万円
 人口5~10万人自治体の平均 資産 141万円 負債 41万円

② 純資産比率（今までの世代で負担済分）・・・ 64.4%

社会資本に対する、現在までの世代がすでに負担している割合（社会資本形成の世代間比率）【純資産合計/総資産合計】
 参考：平成29年度 65.1% 人口5~10万人自治体の平均 71.0%

③ 資産老朽化比率（資産の老朽割合）…………… 53.0%

償却資産の耐用年数に対して、取得からどの程度経過しているか把握する割合【減価償却累計額/償却資産取得価格】
 参考：平成29年度 51.3% 人口5~10万人自治体の平均 58.2%

市の平成30年度財政運営の総括

① 業務活動収支 10億2,404万円
 ② 投資活動収支 △9億7,356万円（基金積立、資産形成）
 ③ 財務活動収支 3,755万円（将来世代の負担）
 ①～③の合計である平成30年度の資金収支は 8,802万円

前年度資金残高との合計は 10億2,369万円

② 行政コスト計算書

市の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料等の収入を示すものです。従来の官庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。経常費用合計から経常収益合計を差引いたものが当該年度の純経常行政コストとなります。

経常費用	159億6,484万円
人件費	31億2,175万円
人件費、退職手当引当金繰入など	
物件費等	56億3,695万円
物件費、減価償却費、維持補修費など	
その他の業務費用	1億7,101万円
支払利息など	
移転費用	70億3,513万円
補助金等、社会保障給付、他会計への支出など	
経常収益	6億5,579万円
純経常行政コスト (経常費用－経常収益)	153億905万円
臨時損失 災害復旧費など	7,749万円
臨時利益 資産売却益など	642万円
純行政コスト (純経常行政コスト+臨時損失－臨時利益)	153億8,012万円

● 4つの財務書類の公表について

市民の皆さんに市の財政状況をよりよく理解していただくため、平成27年1月に総務大臣から通知された「統一的な基準」に基づいて、4つの財務書類（貸借対照表・行政コスト計算書・純資産変動計算書・資金収支計算書）を作成しました。

● 財政健全化判断比率（H30決算）

	日高市	早期健全化基準
実質赤字比率 (%)	-	13.19
連結実質赤字比率 (%)	-	18.19
実質公債費比率 (%)	2.1	25.00
将来負担比率 (%)	3.7	350.00

早期健全化基準以上である場合には、「財政健全化計画」を定めなければなりません。

問い合わせ
 埼玉県日高市大字南平沢1020番地
 日高市総合政策部財政課財政担当
 TEL 042-989-2111(代)